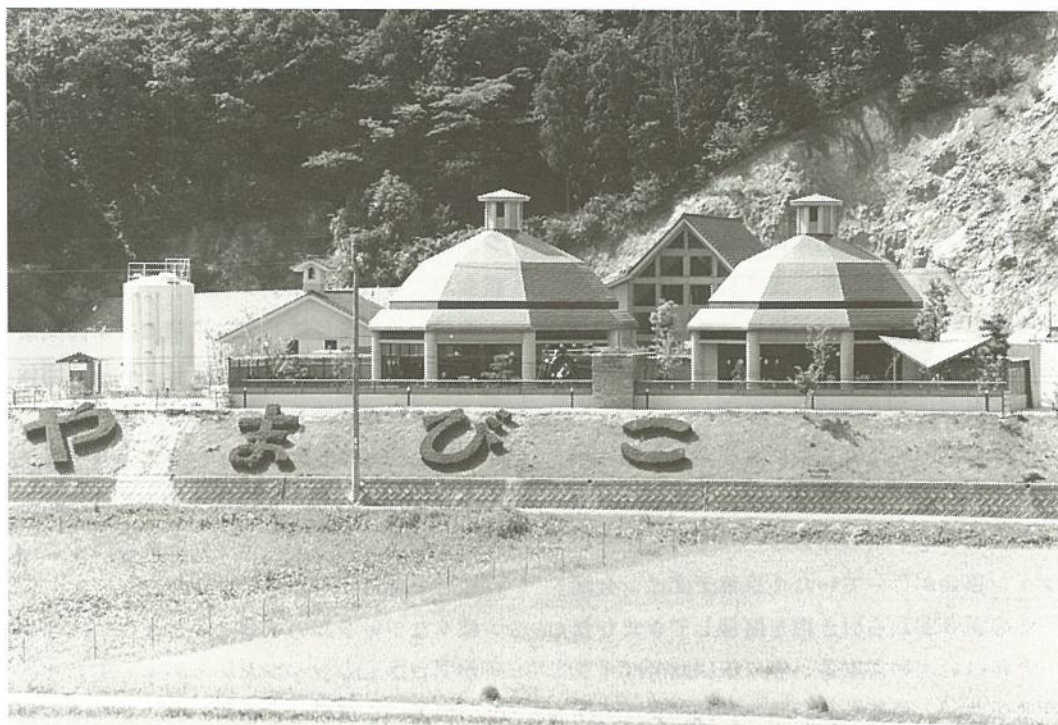


アルパック ニュースレター



但東シルク温泉館がオープンしました（本文中に関連記事があります）

アルパック ニュースレター もくじ

1994年11月1日

- 世界初のエンターテイメントシンポジウム 2
- 峠を越えて海を渡った交流 4
- デンマークの集合住宅にみる“活動（AKTIVITET）” 7
- 『河野卓男 学研都市と京都の未来』出版のお知らせ 9
- 京の時代祭に思う 9
- 宮沢賢治とランドスケーププランニング 11
- アメリカ諸都市における都市政策 12
- ツール・ド・のと400に参加しました 13
- 新刊旧刊書評紹介 15
- まちかど 16

NO. **68**

世界初のエンターテイメントシンポジウム

— 京 都 国 際 デ ザ イ ン 祭 —

三輪 泰司

10月23～25日、国立京都国際会館で、世界初のエンターテイメントシンポジウム「京都国際デザイン祭」が開催されました。

平安建都1200年へ向けて

京都デザイン関連団体協議会（京デ協）が発足したのは、1986年、建都1200年記念協会が出来た年でした。京デ協は建都1200へ、京都のデザイナー・クリエイター達が参加することを目標に設立されたのです。

記念協会の専門委員会に京デ協の各団体から大挙加わって行催事の企画に参加する一方京デ協自身も、構成団体の一つである京都デザイン協会が行っていた「京都デザイン会議」をその第8回から引き継ぎ開催してきました。

今年はいよいよ本番、春に第14回デザイン会議を行い、秋にも第15回を京都国際デザイン祭として華々しく行ったのです。

我が国では明治の初めにデザインのことを「図案」と翻訳したように、帯・着物の柄から始まっています。昭和21年に設立された日本図案家協会の本部は京都にあります。現在では図案は染織から拡がって、工業デザインにまで接近しています。

昭和42年に社団法人化された京都デザイン協会は、新しいジャンルのデザイナー・クリエイターの横断的な組織で建築家も入っていました。その後、建築設計監理協会・グラフィックデザイナー・造園家などの団体ができ、そのようなプロフェッションの団体が集まって一緒に平安建都1200年をお祝いしようと京デ協をつくったわけです。

設立当初8団体でしたが、1990年に柴田献一初代議長の後を受けて、議長に推された時

J I A京都部会も加わり、現在12団体で構成されています。名古屋でデザイン博覧会が開かれたのを機に、中部デザイン団体協議会（中デ協）が設立され、大阪には大阪デザイン連合ができ、神戸・東京にもこのような協議会ができています。

地域の特徴を反映して、京都は日本図案家協会の他、ファッション・デザイナーの団体が二つと伝統産業青年会も参加しています。中デ協も12団体ですが、インダストリアルデザインが強く、建築家団体はJ I Aと建築士会が参加しています。毎年、各通産局ごとに行政との協議が行われています。

様々なジャンルのデザイナー・クリエイターがプロフェッションという一点で集まり、互いの違いを理解し、触発しあう関係は貴重なものです。京都では、その機会としてデザイン会議を協同して行ってきたのです。会議での議論はもとより、各団体からの自発的参加で、開催委員会・企画委員会・実行委員会を組織し、共に汗を流すことが大きな意義もっています。昨年からはファッション京都推進協議会と共催してきましたが積極的に“外”との共同も進めてきました。

人間とデザイン

本年3月のデザイン会議は「アカデミックシンポジウム」と称して、自然人類学と宇宙科学の専門家の話を聞き、西欧文化研究の第一人者と議長自身が対談の形で、デザインの根源を論じました。

300万年前、東アフリカの一角で、猿人から人類へ進化の^キ鑿をくぐり抜けたその時から使い易い、カッコ良い、心地良い「デザイン」



出典：ポスター

が生まれていたのです。それは鳥が恐竜の子孫であることは、羽と鱗に共通な組成であるカロチンで、更にDNAから証明されようとしています。この人間の本性も、もっと前の生命体から受け継ぎ、遺伝子の中に組み込まれているのだと解明しました。

そして使い易さ、かっこ良さ、心地良さは、3つの流れ—クラフト・デザイン、エンバイロンメンタル・デザイン、コミュニケーション・デザイン—となり、科学・技術とともに巨大な「デザインの木」に多彩な展開を遂げてきたのです。因みに人間の外界への環境適応から生まれた衣服と建築・都市は繋がっているという仮説を提供できるでしょう。

宇宙も進化し続けているように、人間も進化の途上にあります。キリスト教社会での、神の世界計画としてのデザイン、産業革命以後、機械文明とヒューマンな手の技との葛藤を繰り返し、デザインはいま巨大資本や情報化と人間性との間に立っています。

そのようなデザイン状況をそのまま提供しシャワーのように浴びて頂くというのが、今回のお祭りのコンセプトでした。

科学と国際

1200年の節目に立って、100年前の明治期の「京都策」との対比がされています。

京都が未来へ不死鳥のように蘇るには、そのキーワードは科学性と国際性である。それ

を切り拓くのはデザインである。これは私の信念です。プロフェッションの創造も、サイエンスにしっかり学び、絶対にインターナショナルでやらねばならないと。

国際デザイン祭、第1日は“挑戦するデザイン・イタリア—京都、空間と環境”でメイン・ゲストは、ベネトンのクリエイティブ・ディレクター、オルピエロ・トスカーニ。第2日は“反発するデザイン・フランス—京都・都市と創造”メイン・ゲストはピエール・カルダン。第3日、“爆発するデザイン・アジア—京都・創造の発見”メイン・ゲストはアメリカのアート・センター・カレッジ・オブ・デザイン（ACCD）のブラウン学長です。

イメージ戦略で、企業の枠を飛び出して地球環境・エイズ・宗教と人類の現代的問題に挑戦しているベネトン社の仕掛け人のプレゼンテーションは、強烈なインパクトを与えました。“はるか”と“ラピート”、“ランボルギーニ・ソニア”と“ジオット・キャピスタ”が登場し、ファッション・ショー、コマース・ニュースが入るテレビのような展開に驚かれたでしょう。

京都府と京都市に経済界も加わって推進しているACCDアジアセンター設立は、この祭を機に具体化し、デザイン系大学の連携も視野において未来をリードする国際的な人材づくりの拠点が実現するでしょう。

この「お祭り」は、それ自身興行的成功へ全力を上げる取り組みでありましたが、その苦勞の多い奉仕活動は、スタッフにとって、仲間の連帯、国際的な人の繋がり、そして明日の創造への測りしれない刺激となって報われるものと信じています。

平安建都1200年の年は終わり、京デ協の目標は達成されますが、ポスト1200年、このエ

エネルギーをどのような形で継承して行くかが次の課題です。

成り行きで議長に推され、精一杯勤めさせて頂きましたが、次世代へ何かを伝えることができたなら私の使命は果たせたと思います。

京都国際デザイン祭の大成功、ここへいた

る3回のデザイン会議、それぞれにご協力頂いた行政・企業の方々、ご尽力頂いた団体長と実行委員、そして事務局の皆さんの熱烈なボランティア精神に感謝と敬意を表します。

(代表取締役会長 みわ ひろし)

峠を越えて海を渡った交流

—但東シルクロード計画からシルク温泉に続く道—

高坂 憲治

「秘境」と言う言葉の定義について考えることになろうとは思ってもみなかった。但東町長から「秘境サミット」によべられたと聞いたとき、僕が通っている但東町は「秘境」だったのかと内心驚き、感激すらしたものである。「秘境」とは人間が近寄り難い閉じた領域を構成する自然界を示しているのだと考えていたからだ。

兵庫県北部、但馬地域の東端に位置する但東町は、昭和31年3村が合併してできた町である。楓の葉のように谷がいくつもあり、谷に沿っていくつかの集落を形成しているこの町は、合併当時9,600人だった人口が6,500人あまりに減少した確かに過疎の町ではある。

繊維産業の不況による但馬ちりめんの不振や、林業の不況、若者の流出、高齢化率の増大等、山間地のもつ過疎化の様相はこの町にも顕著にあらわれている。

しかし、この町は町内に閉じ込もってなん

かない。どの過疎地もそうであるように、この町も都市との交流を起点として、外に向かって開かれた町をめざして足を踏み出している。

「自分が住んでいる町を、だめだ、寂しい、過疎だと言ってもそれだけでは良くはならない。むしろ、うちの町はこんないいところだと言える町にしたい。」

「但東シルクロード計画」は、こんな町民の思いを込めた計画として昭和58年に策定された。

シルクロード—それはアジアとヨーロッパを結ぶ経済・文化の交流の道であると共に僕たちに限りないロマンを感じさせてくれる道でもある。人が、ゆっくり時間をかけて歩んだ道。峠も、草原も、砂漠すらも自分の足でしか進むことのできなかつた道。

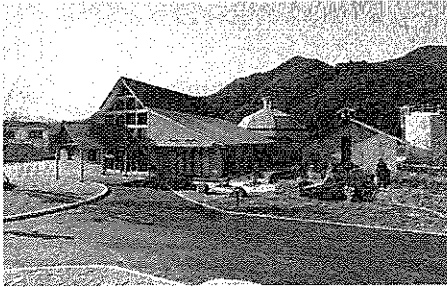
但東シルクロードは、かつて綾部に繭を運んだ道、生糸が運ばれた道、絹織物・但馬ち



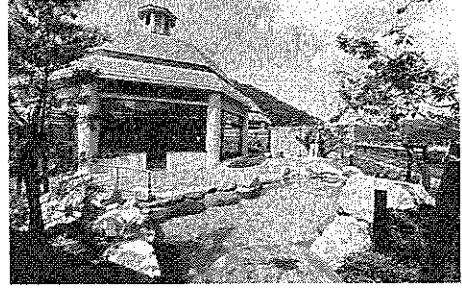
旅人が越えた峠



一区一品運動から生まれた「ばらジャム」



玄関アプローチ



露天風呂

りめんを運んだ道、若者が働きに出た道であり、そうした人・もの・文化の交流を通して都市と農村を結んだ道である。

この交流の道の再生が「但東シルクロード計画」である。ふるさと村民制度、一区一品運動（ばらジャムはその中の1つ）、交流拠点としての但東自然ふれあいセンター“やまびこ”の建設等が生まれ育ってきた。

今「但東シルクロード計画」は、「但東シルクピア計画」（第二次但東シルクロード計画）として新たな展開をみせている。

モンゴルとの交流もその1つである。ある時、いくつかある峠の1つを越えて旅人がやってきた。彼は「私は、ゴビ砂漠の遊牧民を対象にモンゴルの調査をしようと思うが、その前に日本の農村の現況について勉強したい。シルクロード計画をもつこの町を調査したい。」といった。旅人は、彼の仲間たちと共にあたかも砂漠の民のようにこの町に出没し、町民との交流を深めていった。それは同時に町民のふるさと再発見運動ともつながっ

た。やがて旅人たちはモンゴル調査の夢を実現し、「牧歌的」遊牧民の抱える問題が、日本の過疎地のそれと本質的に似ていることを発見する。即ち、若者の都市への流出。

旅人たちの調査は「ゴビ・プロジェクト」という日本の研究者とモンゴル政府の共同開発調査へと発展し、町民の1人が参加したことから但東町とモンゴルの交流が始まった。

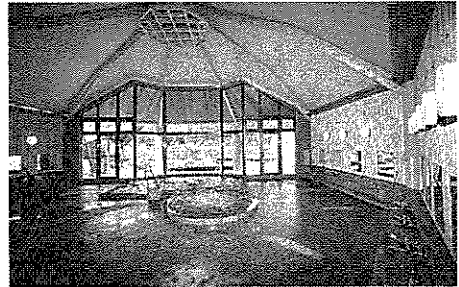
シルクロードとモンゴル、今にして思えば何という巡り合わせだろうか。峠の向こうからやってきた旅人は、この町に海を越えた交流をもたらすことになった。旅人は、大阪外語大学モンゴル語学科の小貫教授と名乗った。

この「砂漠の民」と「森の民」は、10月4日から一週間、「森と砂漠を結ぶ国際シンポジウム&音楽祭」を開いた。41人のモンゴルの人々が但東町を訪れ、ホームステイをしながら、さまざまなイベントに参加して交流を深めた。その手法はもちろん山村流である。

この心の広がり、行動の広がりがある以上但東町は「秘境」とはいえないだろう。少し



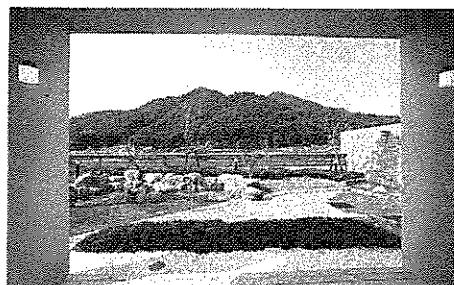
花の湯



山の湯



「ゲル」(シンポジウムの会場にて)



露天風呂からみた風景

ばかりの「秘境」に対しての憧れを除いては。

さて、平成5年但東町に「森の民」念願の温泉が湧出した。泉温34.4℃・湧出量37ℓ/分、決して恵まれた泉源とはいえない。泉質名はナトリウム—炭酸水素塩・塩化物泉だが、とにかく泉質が良い。ナトリウムイオン独特の少しヌルッとした感じに加えて、溶存物質7,590mg/kgという濃さの肌触りがアトピーにも良く効くという評判である。この温泉は中世代の花崗岩の間で圧密されて昇温した1億5,000万年前の水なのである。まさに「森の民」への天からの贈り物だといえる。

これまで、但馬で温泉を活用したまちづくりの計画や、設計のお手伝いを幾つかさせて頂いてきたご縁から、ある時僕もまた雨に煙る峠を越えることになった。

それから幾度となく峠を越えた。雪の日と早朝はさすがにこたえた。

町長はじめ役場の方々はもちろん、「ふるさと創生委員会」の方々とも議論を重ね、この温泉を但東町の新しい交流の拠点と位置づけ、「但東シルクロード計画」の中核施設である「やまびこ」に隣接させ一体化することにより、その機能をさらに強化することにした。そして、この温泉は滑るようになめらかな泉質と絹の肌触りにちなんで「但東シルク温泉」と命名された。

浴室のデザインは、モンゴルにまで発展した但東町の交流を象徴するように、モンゴル

の遊牧民の住居「ゲル」をモチーフとした。遊牧民の住居をさす言葉としては「パオ」が、良く知られているが、それは内モンゴルで使われており、モンゴル国では「ゲル」(モンゴル語で「家」の意味)が正式な呼び名である。

峠を越えて、かつて絹を運んだ道国道426号を行くと、出石川に沿って2つの大きな「ゲル」が見えてくる。2つの「ゲル」はそれぞれ内容が異なり、毎日男女が入れ替わっている。「やまびこ」に泊まったお客さんに、朝と晩違った温泉を楽しんでもらうためである。

2つの「ゲル」の前にはそれぞれ露天風呂がある。出石川を挟んで対岸の田園風景を浴室内からも満喫できるように、塀の高さを低く抑えた。少しばかりドキドキして入浴していただくのも結構かと思うが、期待は裏切られるためにある。

旅人が越えた峠には、今トンネルが掘られようとしている。都市との交流の道は益々整備されることになるだろう。僕は、農村と都市が交流を重ねていくためには、お互いの地域に自信をもつことが必要だと考えている。

「但東シルク温泉」がオープンしてしばらく経ったある日、町民らしきおじさんとそのお客さんとおぼしきおじさん2人が脱衣室に入ってきた。僕はちょうど風呂から上がったところだった。

客のおじさん 「風呂代いくらだい？」

町民のおじさん「1人500円」

客のおじさん「高えーじゃねえか」

町民のおじさん「そんなこたあーねえ。まあ
入ってみねえー」

僕は、このおじさんが大好きになった。

但東町は今、“やまびこ”と「シルク温泉」
の間に「但東の家」として、家族やグループ
向けの宿泊室を増築している。

僕の峠越えはまだ続く。

(大阪事務所 こうさか けんじ)

デンマークの集合住宅にみる“活動(AKTIVITET)”

馬詰 健

今年の6月に、大学の研究者とともに、イギリス、デンマークの非営利住宅供給組織とそのプロジェクトを訪問した。(メンバーは日本女子大学の中島先生、大阪市立大学の小玉先生、神戸大学の平山先生)

今回の視点は、“非営利組織による住宅供給の国際比較”であったが、各自がそれぞれに比較している最中なので、ここではデンマークについて、今回の視察と4年前の1年間の留学経験を通じて紹介していきたい。

その住宅政策全般や供給の仕組みについては、拙稿*)を参考にさせていただきとして、ここで紹介したいのは、その特徴的な集合住宅プロジェクトとデンマーク人の住み方である。それは後述するCOHOUSINGにおいて、最も顕著である。

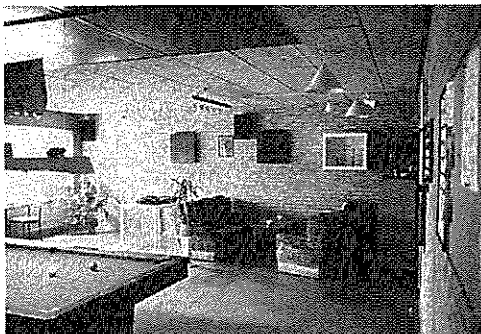
非営利組織の住宅とそこでの生活

デンマークでは、大半の集合住宅は賃貸であり、非営利組織によって、政府の補助を受けて供給される。

その住宅の近年における特徴は、低層・高密度型の集合住宅であること、1つのプロジェクト内に集会所(キッチン付)、ランドリー、バー、ビリヤードルーム、工作室等が設置されていることである。もちろん、すべての住宅がそうではないが、大半の住宅に何らかの共同施設が設置されている。

実は、このように書いても、そこで一体どのような住み方、活動が行われているのか、日本人には想像しがたい。そこで見られるような集合住宅の住み方を行っているのは、日本ではいわゆるコーポラティブ住宅等に居住している人達だけだからである。

集会所では、居住者によるクリスマスパーティや誕生日パーティ等、頻りにパーティが行われている(入り口には、これらの写真が飾られていたりする)。居住者自身によってバーは交代で、ビリヤードクラブは会員制で運営されている。大半の工具がそろった工作室では、日曜大工や趣味の工作などを行うこ



ビリヤードルームとラウンジ



TingaardenのCOHOUSING(1978)
COHOUSINGの原型ともいえる賃貸型プロジェクト
その後のデンマーク集合住宅に大きな影響を与えた



Veile(バイル)市のCOHOUSING(1990)
(居住権型)



Mørkøi の高齢者向けCOHOUSING
ミニキッチンのある各自住戸を出ると、吹き
ぬけを利用した共同のリビングルームがある

とができる。

日本のコーポラティブ住宅では、そのような住み方は計画過程への参加を通じて形成されているが、デンマークでは普通の賃貸住宅（公営住宅といってもよい）で、それに近い活動が実施されている。これは、供給した組織が運営や活動の方法を教育・誘導するためのオリエンテーションを実施している点が大きい。

COHOUSING

さらに共同性の高い住み方を実践しているのが、COHOUSING（コハウジング、デンマーク語：BOFAELLESSKAB）である。

COHOUSINGとは、その住み方を指し、持家、借家、協同組合住宅等の所有関係によらない。ハード面では、10～20戸の低層・高密度及び中庭型の集合住宅で、共用施設を中庭に配置したタイプが多く、先ほどの例とそれほど変わらない。相違点は、居住者自身で入居者集めや計画過程に参加すること、夕食当番や共同の食事（週3～5回程度）、共同倉庫の設置

（一種の売店で、使った分だけ後で清算）など、より共同性の高い、1つのコミュニティを形成していることである。

また、近年では高齢者による COHOUSINGも建設されている（グループホームとは異なり、公的ケアはない）。政府も高齢者自身による自助的な居住形態として注目し、支援を始めている（非営利組織主導で供給する例も出てきている）。公的ケア、家族ケア以外のインフォーマル・ケアとして注目される。デンマーク人の住み方、その“活動”

これらの住み方はデンマークでも特殊と捉えられることもある。たとえば COHOUSINGは、まだ40プロジェクト程度しか、建設されていないし、一般的とはいえない。

しかし、非営利組織による住宅ストックの多くでは、何らかの共同活動が行われているし、実は戸建てやコンドミニウムに住む人達の間でも、誰かの家や近隣の集会施設を利用して、同様の活動が行われている。多くの日本人にはデンマーク人の特徴とさえ映る。



Veile市のCOHOUSINGの子供たち ここではうさぎを飼っているが、実は共同でやぎも飼育している



Veile市のCOHOUSINGの裏庭にある“はりぼての牛”
居住者によって作られたが今はひっそりと生活している

このような共同“活動”を可能にする背景にはいくつかの理由が考えられる。協同・労働組合運動等を基盤とした国の発展経緯やユートピアン社会主義の影響等々。そしてグルントヴィが創立した国民高等学校の存在等である。国民高等学校は義務教育を終了したすべての者に解放されており、全寮制でグループ活動などを重視した教育機関で自由主義と相互啓蒙をモットーとして、先ほどの活動を広く、国民に浸透させている一因である。

振り返ると、今回のデンマーク訪問で最も印象に残ったのは、直接住宅とは関係のない“活動 (AKTIVITET)”という言葉であった。それは、日本語の“活動”とは意味、重みが

異なる(と思う)。日本では、どちらの意味でも減少しつつあり、とくに集合住宅ではコーポラティブ住宅等でしかみられなくなってきている。

デンマークで“活動 (AKTIVITET)”のあるたくさんの住宅をみる事ができる理由は、それを楽しむ国民性、教育・支援する仕組みが社会に根づいているからだと痛感した。

(大阪事務所 うまづめ たけし)

*)デンマークの住宅協同組合 -福祉基盤としての役割- (都市計画、No. 192、1992)
デンマークの非営利住宅協会が居住状況の改善に果たす役割 (都市計画学会論文)

きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況

『河野卓男 学研都市と京都の未来』
出版のお知らせ
金井 萬造

関西文化学術研究都市は、1978年の「新都市構想」の提案以来、15年を経て、ようやく今秋都市びらきを迎えることになりました。この都市びらきを記念し、功労者7名が国土庁長官より表彰されました。

その中のお一人である河野卓男氏(ムーンバット会長)の表彰に併せ、学研都市づくりへの河野氏の努力の道筋を冊子にしました。学研都市づくりの推進者である奥田東先生、岡本道雄先生と河野氏の秘書兼側近として、弊社三輪泰司会長が長年に渡りお手伝いさせていただいたお礼として出版いたしました。

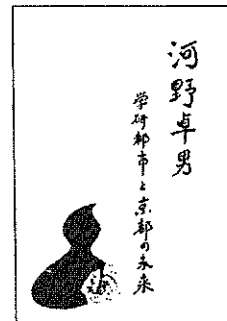
河野氏の論文や講演録を集めてみると、分野の広さ、数の多さに、氏のご活躍の様子がうかがえます。今回は、京都のまちづくりと学研都市づくりにテーマを絞り、まとめました。今後の学研都市の第二ステージへの新たな発展を期待したいと思います。

本冊子が読者の皆様へ何らかの参考になる

ことを望んでいます。ご希望の方は、原価にてお譲りいたしますので、大阪事務所企画推進部、中西までご連絡下さい。

TEL. 06-942-5732 FAX. 06-941-7478

(代表取締役社長 かない まんぞう)



京の時代祭に思う

高橋 清

皆さん今日は！初登場のご挨拶がわりに、お祭りについての随想を一つ。

10月22日は、おなじみの時代祭です。今からちょうど100年まえ、平安遷都1100年を記念して平安神宮の建立と併せて設けられ、行列は、京都1100年の歴史を、著名な人物と行事であらわしています。絢爛豪華さと時代考

証に裏づけされた豊富な内容は本当に素晴らしいものです。そして、京都市内各学区で構成された平安講社が、お祭りを取りしきっています。

ところで皆さん、このお祭りを何回見られましたか？そうです、わたしも長く京都に住んでいて2、3回しか見ていません。なぜでしょう？

まず、この行列はホントに長い。当町各学区から裃姿で大勢過ぎる人が参加している。つぎに、音曲が山国隊の鼓笛と平安時代の太鼓だけ、また、演技は奴と毛槍だけ。第三に、毎年殆ど内容はおなじ。第四に、“わたし見るひと、あなた歩くひと”で行列のうちそとに交流がない…。そんなこんなで、楽しさが足りないし、一度見ると当分見ようという気がおこらない。というのが市民にとっての時代祭だからでしょう。

また、一人びきの小さな荷駄車を、クルクルと何回もその場で廻すアルバイトの荷役に、観衆が大きな拍手を送っているのを見ましたが、拍手によってでも参加したい人々にとって、ほかに、いかに盛り上がる所が少ないかを示しているように思えました。

お祭りに欠かせない要素として“楽しめる”、“参加して楽しめる”ことがあると思います。時代祭が“動く博物館”であるとしても、お祭りである限り、やはり楽しいものであって欲しいものです。

それから、もう一つ。今年は平安建都1200年、お祭りが始まって100年たちました。この100年分の歴史を、時代祭のなかに取り込めないものでしょうか。今年は新しい“京都祭”を催すと聞いていますが、この二つのお祭りはどう関わるのでしょうか。

そこで、二つ三つ、夢のような提案をしてみたいと思います。

第一には、演出を採り入れる。全体には大変ですから、まず一部分について採り入れる。たとえば、いま男行列と女行列は別々ですが、太閤さんとねねとを組み合わせる方法を考える。毎年、異なる部分について、はじめのうちは専門の演出家に依頼し、そのうちに公募する。大きな動きのある演出については御池通や平安神宮まで展開する。また、観衆の参加意識に応えるため、白川女の御所への献花行列も、特定の場所では、花を観衆の希望者に売る、など。

第二には、当町の裃姿をウンと絞るとか、何かの方法で行列の短縮を考える。

第三には、この100年分の歴史として、びわこ疎水の建設、市電、名物市長、姉妹友好都市のお祭りetc.の中から、適当なものを選んで加える。

第四には、さらに、将来の都市計画の夢とも関連して考えられる。その都市計画とは、京都市内の相応しい地域に、歴史時代別に、町並みや生活を復元したテーマ村を創ること。そして、お祭りの行列は、このテーマ村からスタートし、演出つきで御池通あたりで合流し、平安神宮へ向かうことになる。なお、このテーマ村については改めて考えて見たいと思っています。

京都に長く住んできて、思うことが沢山あります。今後とも、なにかと宜しく願いいたします。

(主席研究員 たかはし きよし)

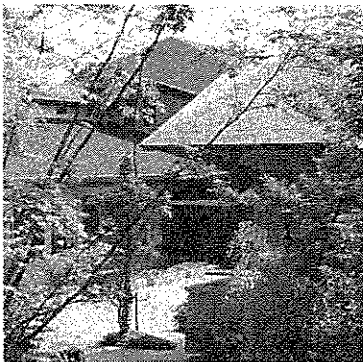
高橋さんは京都市で計画局企画課長、文化観光局次長、教育長等を歴任の後、京都市代表監査委員をされていましたが、本年9月より、当社の非常勤の主席研究員としてお迎え致しました。アルパックでは、学校施設、教育施設等の研究にあたります。

宮沢賢治とランドスケーププランニング
 — 宮沢賢治記念館 —
 中根 博一

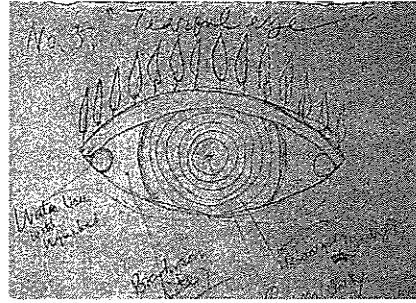
初夏の頃に東北地方の山間部を視察する機会に恵まれ、八甲田山、岩手山、安比高原リゾート地、八幡平、奥入瀬等々、東北地方の豊かな自然とルーラルロケーションを充分満喫しました。帰途につく途中、花巻から遠野へ向かう沿道の丘陵地の緑の中にすっぽりと隠れるようにして建設された宮沢賢治記念館『宮沢賢治イーハトーブ館』を訪ねてみました。

本館は、宮沢賢治をめぐるその環境・信仰・科学・芸術・農村・総合・資料の7部門に分けて展示し、視聴覚的に宮沢賢治の全体像に近づこうとする施設です。それに対してイーハトーブ館は、宮沢賢治の人と作品を愛する人々が、それぞれの立場から発表した様々なジャンルの芸術作品や研究論文を集め、見たり、利用したり出来る施設です。同時に賢治作品の愛好者・研究者の集まりである『宮沢賢治イーハトーブセンター』の拠点でもあり、研究や発表・講習会のための施設が整備されています。

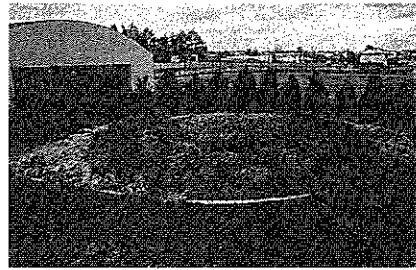
20数年前に『銀河鉄道の夜』を読んだ記憶があるものの、今ではその内容も忘れさっている私にとって宮沢賢治は、メルヘンチックな文章を書く文学者としてのイメージしかあ



宮沢賢治記念館 出典：パンフレット



「涙ぐむ目」花壇設計図



昭和53年6月、盛岡少年院の校庭に造られた「涙ぐむ目」の花壇
 出典：新潮日本文学アルバム宮沢賢治新潮社

りませんでした。宗教家、農村運動家、科学者、教育者、芸術家、文学者、音楽家等々としての多才な宮沢賢治像の展示資料の中に花壇設計ノート、メモ、スケッチを見つけた時に宮沢賢治はランドスケーパーでもあったのかと改めて認識しました。しかし、考えてみれば宮沢賢治は盛岡高等農林学校を卒業し、農学校の教師をしており当然造園や緑に関する専門家でもあり至極当然のことであったのです。

最近、私自身の仕事の中でも、中山間部や農村における地域のグランドデザインや地域振興・環境・空間・景観計画等の総合的ルーラルデザインということが一つの命題になっています。その中で、イーハトーヴ*)の地域を愛し、独自の文化の育成を目指して、その人間的豊かさと多様な才能を駆使し、豊かな自然と四次元宇宙を科学者の目で捕らえた、独特な魅力的世界とスケッチ等による具体的造形を示してくれている宮沢賢治の世界は、短い時間でしたが色々な観点で刺激を与えてくれました。

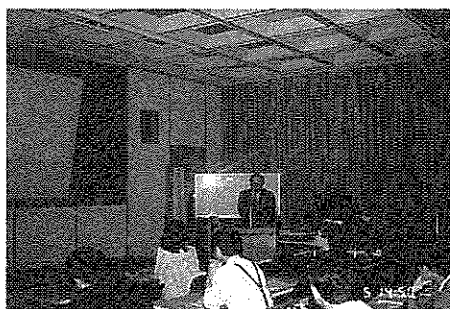


実際に造られた花壇等の作品が現存するならその世界に身をおいてみたい念と、もう一度ゆっくり宮沢賢治の世界を訪れたいという気持ちを抱きつつ花巻空港からイーハトーヴをあとにしました。

(京都事務所 なかね ひろかず)

*)イーハトーヴ 賢治は岩手県をイーハトーヴといった。このことは賢治の唯一の生前刊行童話集となった『注文の多い料理店』の発刊の際に作られた宣伝用の愉快な広告ちらしや広告葉書(賢治も文案を書いた)でわかる。そのちらしの掲載文によると、「イーハトーヴは一つの地名である。強て、その地点を求むるならばそれは、大小クラウスたちの耕してゐた、野原や、少女アリスが辿った鏡の国と同じ世界の中、テバーンタール砂漠の遙かな北東、イヴン王国の遠い東と考へられる。突にこれは著者の心象中に、この様な状景をもつて突に生じたドリームランドとしての日本岩手県である。」とある。

出典：『注文の多い料理店』 宮沢賢治著 新潮文庫



国都市政策の動向と展望

青山氏の「米国都市政策の動向と展望」の講演内容は、大きく三点に分けられます。

一つは、米国では連邦政府と州政府、地方政府の内、州政府が実権を握っており、税制改革から産業誘致等、具体的施策について州独自のプランの実現が可能であるというように、地方分権化が進んでいます。

二つは、あらゆる計画に市民グループが提案を行い、その提案について市民グループと行政が検討していく市民参加が重要な要素になってきています。また、企業が地域づくりに積極的に資金、人材、意見を出している。今後Public & Private Corporation：公共先導型まちづくりではなく、市民と企業の協力によるまちづくりが課題となっています。

三つ目が、環境政策と交通政策の複合的政策です。1990年に Clean Air Act (清浄大気法) の改正により、基準に満たない都市、地域は、環境改善のためのプログラムをつくることと課されました。このClean Air Act を支えるものとして、ISTEA (アイスティ)：Inter-modal Surface Transportation Efficiency Act (地上交通の効率的総合形態に関する法) が1991年にでき、これは公共交通機関建設、テレコミューニング (自宅勤務) などの交通量低減対策と環境保全対策との複合的政策です。

各都市の都市政策が、ISTEAを意識した政策

アメリカ諸都市における都市政策
—平成6年度アルパックセミナー—
吉津 愛樹

さる10月5日、「アメリカ諸都市における都市政策」というテーマで、アルパックセミナーが開催されました。

講師には、Institute of Public Administration (IPA：行政研究所) 所長、都市計画の専門家として、これまでも日本との研究・交流など多方面でご活躍をされています David Mammen氏、及びニューヨーク大学に留学のかたわら、同研究員としてもご活躍されています青山公三氏をお招きし、貴重なご講演をいただきました。

今回のセミナーは、関西国際空港の開港に伴い、大阪を中心とする関西圏の国際化への気運が高まりつつある社会的背景の中、アメリカ諸都市におけるまちづくりの先進事例に着目し、諸都市の政策に学ぶことを目標にしました。

をとっている。交通政策を考えることは、同時に土地利用政策を考えることである。このように、将来の環境をいかに考えていくかが、米国において重要なテーマになってきている。

米国4都市の都市開発政策

Mammen氏には、4都市の都市開発政策の紹介をしていただきました。

都市圏全体として成熟しているニューヨークは、都心部での再開発、オフィスの郊外化、犯罪やホームレス等の問題に対して、B I D : Business Improvement District という政策のもとハード・ソフト両面の都市整備、ホームレスの雇用等が図られています。例えば、B I Dの対象である近隣街区内の不動産所有者が、年間数百万ドルの基金を募り、街区の植栽や歩道整備などに充てたり、街区専用のガードマンや清掃員にホームレスや失業者を採用し、街区の環境向上を図っています。

米国中部に位置するデンバーは、カリフォルニアからの産業・人口の流入により、急速な成長を遂げ、そのため都心部周辺ではスプロール現象が顕著にみられます。今後、スプロール化を解消しつつ、更にこの成長を維持するため、巨大空港の整備を中心とした地域開発の推進、工場跡地や現空港の跡地利用等の大規模再開発が計画されています。

西海岸の物流の拠点として発展しつつあるポートランドは、市及び周辺の23市を包含する3郡によって「METRO」という全米でも唯一議員を持った広域行政圏を設立し、特に圏内に「都市成長区域界」を設け、「成長管理計画」を推進するなど、計画的な都市政策を図っています。この背景には、州政府の積極的な交通政策と土地利用政策をドッキングさせる政策があることが大きいそうです。また、METROによって整備された市内と郊外を結ぶ「ライト・レールウェイ」(90%

連邦補助)が市民に好評を得ているとのこと

です。

サンフランシスコ都市圏における広域行政圏としては、ベイエリアの広域的な計画立案に寄与するA B A G : Association of Bay Area Government、ベイエリアの交通に関わるM T C : Metropolitan Transportation Commission、大気汚染の規制・監視に関わるAir Districtがあり、これら相互間の連携により都市政策が行われています。

おわりに

今回の講演で一番印象に残ったことは、市民参加が重要な要素を占めていることです。市民が積極的にまちづくりに取り組み、官民一体で合意形成を図りながら進めていく方が、より人間味のある、言い換えれば、住み手にとって住みよいまちができると思います。また、講演後の質問や活発な意見交換に、参加者のまちづくりへの熱意を感じました。

(大阪事務所 よしづ あいき)

ツール・ド・のと400に参加しました

高野 隆嗣

今年で6回目というこのイベントは、(財)日本サイクリング協会、北國新聞社、ツール・ド・のと400実行委員会などが主催する「サバイバル・ツーリング」です。

稲刈りで賑わう初秋の能登路を、3日間(9/16~18)かけてサイクリングするものです。日本各地より、老若男女を問わず、初心者からベテランまで1,500人が参加しました。初日は金沢→輪島(122km)、2日目は輪島→能登島(177km)、最終日は能登島→金沢(121km)。能登半島一周420kmの行程です。いずれも「難所」といわれる峠と、大小のアップダウ

ンヒルより構成されています。腕自慢、脚自慢の参加者も、折りからの雨にたたられ、息も絶え絶えにチェックポイントを目指します。

数十kmごとに設けられたチェックポイントは、町役場、運動公園、体育館、国民休暇村などに仮設テントを張って設置されています。ここでは、町役場の職員や観光協会のメンバー等が、土地の「名水」でつくった麦茶や農産物、あつあつの能登島名物「大漁鍋」などを振る舞ってくれます。

また、沿道ではカサをさした地域の人たちも応援してくれます。「がんばって!」「ありがとう!!」。わずかな言葉のやりとりですが、走者の全身は奮いたち、両脚に力がみなぎります(大袈裟なようですが実感です)。

こうした地元の人達の暖かい声援もてなしを受け、私達はゴール目指してひたすらペダルをこぎ続けました。3日間を通し参加者1,200人のほとんどが、たいした事故もなくほぼ完走したそうです。

さて、私自身の参加報告ですが、晴天通勤(伏見桃山→四条烏丸:約10km)のみの未熟者のこと、2日目にヒザの筋肉を傷めてしまいました。3日目には、股、足首、腰、腕、手首、肩、そして首にいたるまで、リタイア

を主張し続ける始末です。

チーム(石川県七尾市の「夢遊輪」)の皆さんの適切なサポート、小学生の息子の風よけになりながら走るお父さん、肢体障害を持ちながら3輪車で金沢を目指すおじさんらの激励により、何とか制限時間ぎりぎりゴールを果たしました。帰りの雷鳥で、「完走証」を着に両足をさすりつつ飲んだビールは格別でした。

能登半島あげての自転車イベントに参加し、私は3つの確信を持ちました。

ひとつは、素晴らしい体験を与えてくれた能登の人たちのもてなしと美しい自然が、参加者の心に深く刻まれ、多くの能登フリークが生まれたということです。

また、私のような「にわか自転車乗り」の参加者が、サイクル・ラバーズに進化したということです。

そして、沿道からお母さんと一緒に応援してくれた子供たちが、数年後には、全国から集う参加者にまじり、苦しみながらも明るく、能登路を走り抜けているに違いないということです。

(京都事務所 こうの りゅうじ)



「北国新聞」 右、1994年9月17日
左、1994年9月16日

新刊旧刊書評紹介

浦邊真郎・福岡雅子 共著
 空気調和・衛生工学会新書／理工図書

「建物の廃棄物管理」一入門編一

紹介 小泉 春洋

廃棄物の仕事を始めて十数年経ったが、これまで不思議に思っていたのは、ごみに最も関連がある家政科や建築関係の書物にごみに関するものがなかったことである。

建物の中でどれだけのごみが発生し、それをどのように保管すればよいか……。マンションではごみの置き場に困るだろうし、畳の部屋を通してベランダに持って行くのも衛生的ではない。事務所ビルでも、高層ビルではごみの運搬にエレベーターがかなり占領されるし、地下の保管場所は駐車場と取り合いになるはずで、ビルの設計に当然考慮しなくてはならない要素だと思われるのに……。

ようやくその建物と廃棄物の問題がこの書物で解消に向け第一歩を踏み出したといえる。建物の管理者、オーナー等を読者の対象にしたとあるように、内容的にはこれ一冊でビルのごみに関する設計全てが十分まかなえるわけではないが、ビル等の建物の設計にたずさわる設計者にとってもごみに関する概略を知る手がかりになるだろう。

また最近、増え続ける事業系のごみに業を煮やした大都市を中心に、大規模建築物でのごみに関する管理者の設置と減量計画書の作成を条例で義務づけるようになってきた。本書は、建物の設計にたずさわる人だけでなく、これらの廃棄物管理者にとっても大いに役に立つと思う。

まえがきに述べられているように、現在の日本では、建物内から発生するごみの量や質の情報が乏しく、また、建物内から排出されるごみと外部のごみ処理やリサイクルシステムとの整合性が不十分である。そこで、廃棄

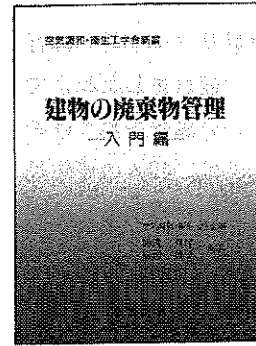
物の管理に焦点を当て、本書の前半では廃棄物全般の基礎知識を述べ、後半では建物の廃棄物管理のため、建物から排出されるごみの実態を調べる方法、病院、

事務所ビル、大型小売店、ホテル・旅館等の建物からどのようなごみが排出されているかなどについて、豊富な実態調査の結果を取り入れて説明し、それらのごみの建物内の移動・運搬、保管等建物内のごみの管理のあり方までを述べている。

本書は建物の廃棄物管理について基礎的事柄を中心に述べられているが、さらに一步踏み込んだ内容への期待も大きいだろう。例えば、ごみを減らしたりリサイクルを建物内で進めていくためには、建物自身でそれをこなせるように保管場所等の設備が十分確保されている必要がある。このため、建物の規模や入居する業種に応じて、ごみの排出量が予測され、適切なごみや資源の保管場所の面積等設計のフレームを導き出せるようなデータが必要である。そこで、建物内での分別の仕組みの提示など、建物の設計段階から廃棄物のことを考えていく具体的な指針を続編に期待する。

(大阪事務所 こいずみ はるみ)

編集局注：著者の一人、福岡雅子は大阪事務所で紹介者とともに廃棄物・環境関連の業務にたずさわっています。



まちかど

世界リゾート博で見つけた“南の楽園”

原田 稔

この夏、和歌山マリーナシティで開催された世界リゾート博へは行かれましたか。大変な人で疲れましたね。でも、そんな中でちょっといい風景を見つけました。

そこは、40人の原住民ごと持ち込んで再現された西サモアのビーチで、ヤシの葉を葺いた独特の建物、腰ミノをまもってヤシの実を売る人、スカート履いたポリスマン全て本物なのです。それになんとと言っても西サモアの人が良い。外国の町並みを再現しているテーマパークはたくさんありますが、そこにいる外国人は役者がかかっていてどうも好かんかった。しかし、この人はその素朴な風体といい笑顔といい好感が持て、それだけで何となく心が安らぎ、長蛇の列に並んでパビリオンに入るのがばからしくなる。そんな気分させる南の楽園なのです。

白い砂浜のビーチでは子供達が水遊びをしたり泳いだり、時間を忘れて遊んでいる。大人達はといえば、人の多さに自分の行き場を失い、ただただ疲れている。このゾーン以外でもこのような光景をよく見かけました。結局、自分流の楽しみを見つけることが出来たのは子供達だけだったようです。本当のリゾ

ートの楽しみ方を子供達から教えられたような気がします。

(大阪事務所 はらだ みのる)



大勢の人でにぎわう会場



スカートを履いたポリスマン



ビーチで水遊びをする子供達

アルパック (株)地域計画建築研究所

- 本社
- 京都事務所 〒600京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82・大和銀行京都ビル6F/TEL(075) 221-5132 FAX(075)256-1764
- 大阪事務所 〒540大阪市中央区城見1-4-70・住友生命OBPプラザビル15F/TEL(06) 942-5732 FAX(06)941-7478
- 名古屋事務所 〒460名古屋市中区丸の内3-18-30・ツボウチビル2F/TEL(052)962-1224 FAX(052)962-1225
- 東京事務所 〒160東京都新宿区新宿2-5-16・霞ビル401/TEL(03)3226-9130 FAX(03)3226-9560
- (株)九州地域計画研究所 〒810福岡市中央区天神1-15-1・日之出ビル6F/TEL(092)731-7671 FAX(092)731-7673
- (株)アルパックインターナショナル 〒540大阪市中央区城見1-4-70・住友生命OBPプラザビル15F/TEL(06)965-2012 FAX(06)965-2014
- (株)都市居住文化研究所 〒604京都市中京区東洞院通り六角上ル三文字町225・朝陽ビル4F/TEL(075)252-2231 FAX(075)252-4417